

— 紙 碑 —

小林英司先生を偲ぶ

石居 進

日本鳥学会名誉会員*、東京大学名誉教授の小林英司先生はさる12月24日、老衰のため93歳で逝去されました。先生は古くから最近まで、長い間、日本鳥学会の会員として活発に鳥類の内分泌学的研究に従事され、昭和38年には日本鳥学会賞を受賞されました。

先生は鳥類を始めとする動物の比較内分泌学的研究では世界のパイオニアであると同時に、世界の第一人者でもいらっしゃいました。その研究材料は広く動物界全般にわたり、397編の原著論文、135編の総説として発表されていますが、その多くは鳥類に関するものでした。これらの研究により、先生には国内では日本動物学会賞、日本学士院賞、勲三等旭日中授章が、国外ではDonald Farmer Medal (国際鳥類内分泌学会賞)、アジア・オセアニア比較内分泌学会名誉賞などが授与されています。

また先生は日本比較内分泌学会を創設され、その初代会長を務められましたし、日本動物学会の会長も務められました。また動物学雑誌の編集幹事として、またその後身のZoological Scienceの創設や国際化にも関与され大きな役割を果たされました。また国際的には、世界に先んじて、国際鳥類内分泌学会議の創設に活躍され、長くその国際委員を務められましたし、いくつもの国際会議を主催されました。アメリカで出版され、現在は国際比較内分泌学会の機関誌となっているGeneral and Comparative Endocrinologyの編集にも雑誌の発行当初から編集委員として活躍され、その発展に

貢献されました。

先生の鳥類についての研究は、初期にはカナリアを用いて換羽のホルモンによる支配の機構を明らかにされたものがあります。また、鳥類の特徴をうまく利用して、ミヤマシトド、マガモ、ウズラなどを用いて、光刺激が繁殖を引き起こす際に、神経分泌系が関与し、神経調節とホルモン調節の仲介をする部位が視床下部の正中隆起部にあることを解明されました。さらに鳥類の水分調節や飲水行動についてのホルモン調節機構を明らかにされました。

また先生の卓越した指導力と、素晴らしい人間的魅力は多くの学生たちを引き付け、何人もの鳥類内分泌学研究者を育てられ、いまやその孫弟子にあたる人たちまでもが、この分野で世界的をリードするようにさえなっています。また、二人のご子息も先生の影響か、生命学者となられ、お一人は世界的な膠原病研究者兼臨床医として、もう一人はこれまた国際的な魚類内分泌学研究者として活躍されておいでです。

このような先生を失ったことは、その教えを受けた者たちにとっても、また多くの鳥類研究者にとっても大きな痛手であり、悲しみでもあります。先生はご自分のための葬儀などに使う時間があれば、それを研究に使うようにと常々おっしゃってお出ででした。このお気持ちを胸に、我々も一層研究に励むことがなによりもの先生へのご追悼だと信じ、この文をしたためた次第です。

(早稲田大学名誉教授)

* 小林英司氏は名誉会員でしたが、晩年病を得られご家族から退会の意思が伝えられたため、会員の登録としては元名誉会員となっています。(学会事務局)